

4. 施設計画

4.1 施設ゾーニング

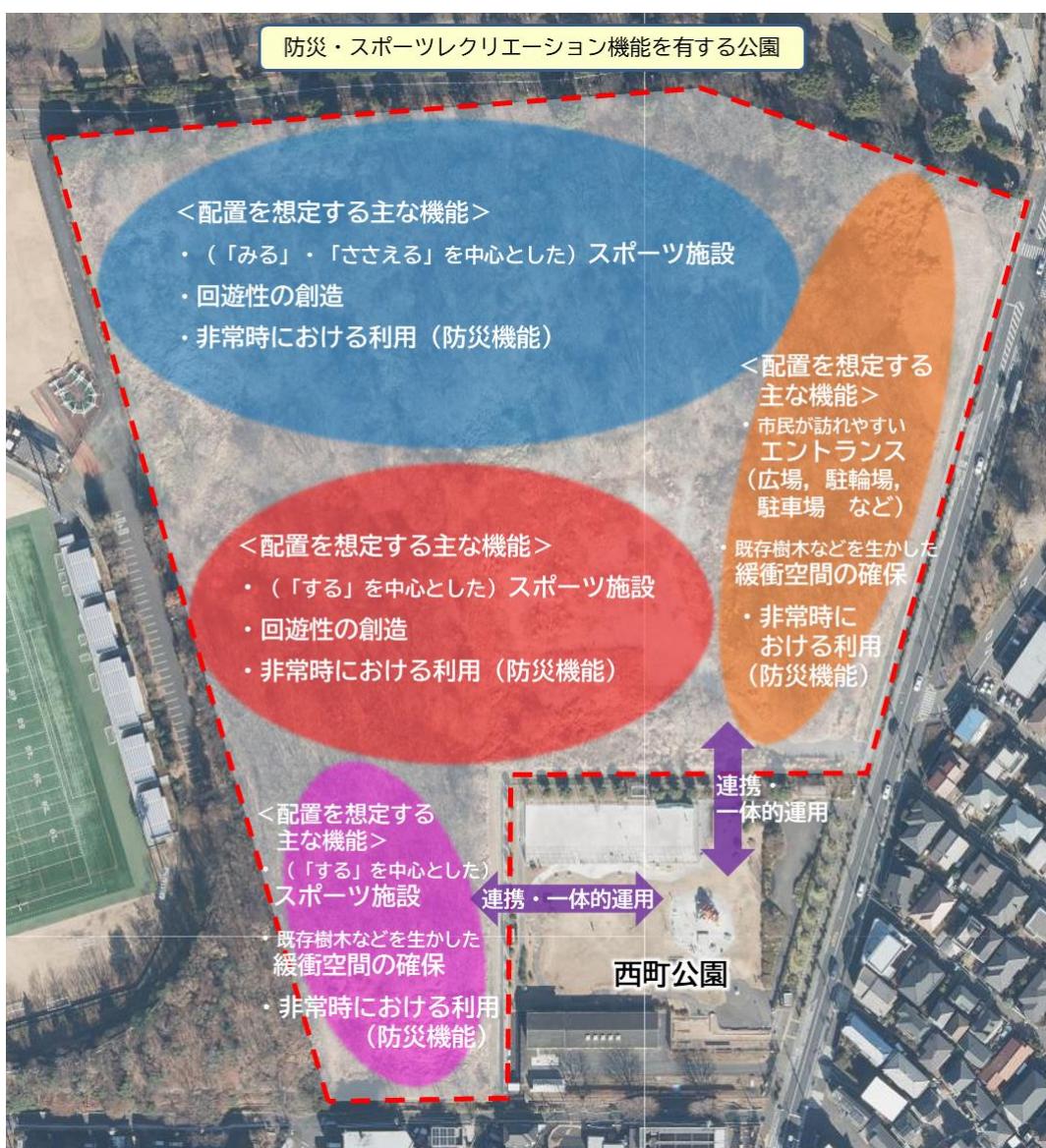
留保地の利用における施設のゾーニングについては、利用計画で整理した考え方である「スポーツ施設」、「広場」、「回遊性」、「非常時の利用」を基本とする中で、これらに関する機能は確保しつつ、FC東京からの提案等を踏まえて整理しました。

あわせて、本施設整備において、中核機能となるスポーツレクリエーション機能の中で、大きな割合を占めることを想定するスポーツ施設については、調布市スポーツ推進計画に基づき、「する」スポーツ環境の充実として、市民ニーズを踏まえた安全で利便性の高い施設の整備に努めます。

また、「みる」スポーツ環境の充実として、FC東京と連携したトップアスリートとの交流機会やトップスポーツチーム等の観戦・応援機会の創出など、市民がトップスポーツに触れる機会の充実を図るための整備を進めます。

さらに、市にゆかりのあるアスリートを応援するとともに、次代を担うスポーツ選手の支援など、「ささえる」取組を推進する視点にも留意します。

図表6 施設ゾーニング



4.2 施設配置

施設ゾーニングを踏まえた各施設の配置は以下の図に示すとおりであり、都市公園として市民に開かれた施設の運用を図ります。

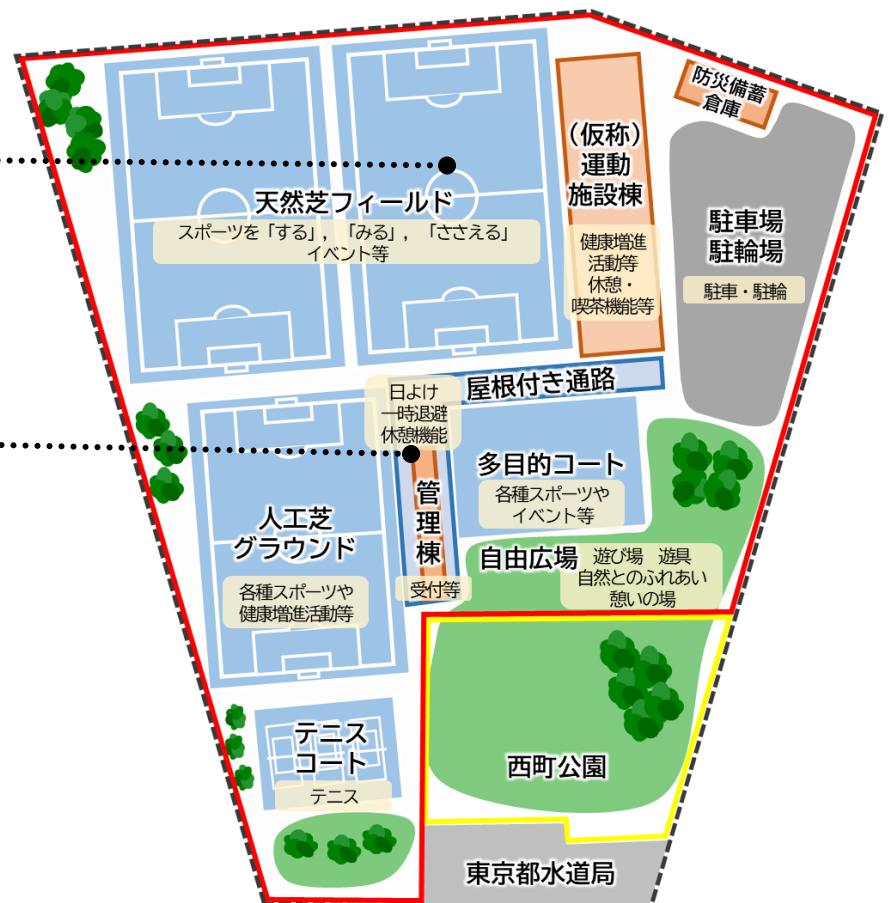
また、FC東京からの提案を踏まえ、FC東京の練習拠点としての機能を有する施設についても、多角的な視点から市民がスポーツに親しむ場となるよう努めることとします。

FC東京の練習拠点としての機能を有する施設として、天然芝フィールド及び（仮称）運動施設棟を整備するとともに、同施設において、市は、市民がスポーツに親しむ様々な機会の確保に努めます。

天文台通りに面した自由広場を施設の顔とし、地域に開かれ親しまれる多機能で魅力ある空間を創出します。
広く市民の利用を想定する運動施設（人工芝グラウンド・テニスコートなど）や、防災機能の核となる防災備蓄倉庫などを整備します。また、南に隣接している西町公園との一体的な運用を目指して、連続性も考慮した自由広場を整備し、幅広い世代のふれあい・活動の場にします。あわせて、周辺住環境への影響にも留意します。

園路については、施設内の回遊性、西町公園等との連続性を確保する視点で配置します。また、「ウォーキング」、「ジョギング」などの観点のほか、「災害用物資の搬出入経路」としての活用など、多様な役割を想定した整備に努めます。

図表7 施設配置【通常時】



4.3 施設配置の考え方

留保地内に整備する各機能については、敷地の形状や施設内動線、西町公園との連続性、近隣の住環境への配慮などを総合的に考慮し、効果的で効率的な配置とします。

【①自由広場】

南に隣接する西町公園とともに、本施設のエントランス（入口）を想定する天文台通りに面する部分を誰でも利用できる広場とします。あわせて、施設の顔として、既存の植栽も活用しながら豊かな自然の景観や開放感を醸し出し、地域住民や来訪者が親しみを持てる空間とします。

緑が有する機能である暑熱対策（木陰）や雨水浸透、遮音、遮光、CO₂削減など、グリーンインフラとしての観点からの有効活用を図ります。

誰もが利用できるインクルーシブの視点も踏まえた遊具などの設置に加え、多世代が憩える場の確保や、既存の西町公園との連続性、一体性にも考慮した効果的で機能的な配置とします。

【②多目的コート】

汎用性の高い開放的なスペースとして整備し、より気軽に多くの市民における多様な利用（スペースを柔軟に活用したニュースポーツ（ドッヂビーやモルック等）、フットサルなどの様々なスポーツや運動、ボール遊びや子どもたちの活動、利用者によるイベント等の実施）に供する運用を想定することで、新たな付加価値の創造と併せて、施設の有効活用につなげます。

【③人工芝グラウンド】

一般的なサッカー場の広さとするとともに、1利用当たりの人数が他の機能と比較して多くなることを想定しつつ、敷地全体の中で、周辺環境への影響等も踏まえた配置とします。

施設の広さや人工芝を生かし、ラクロスやグラウンド・ゴルフ等の様々なスポーツや市民の健康増進活動、保育園・幼稚園での利用など、幅広い世代の市民における様々な用途での利用を可能とする運用を想定することで、施設の有効活用につなげます。

FC東京からの提案では、当該施設についても、FC東京による利用が想定されていることから、利用の時間帯等について、FC東京と協議していきます。

図表8 施設配置【通常時】



【④テニスコート】

市のスポーツ施設の中でのニーズや、市内におけるテニスコートの稼働率の高さなどに鑑み、複数のコートを設置します。また、他の機能と比較した1面当たりの面積が小さいことを踏まえ、留保地の形状を踏まえたスペースを有効活用する配置とします。あわせて、配置位置を踏まえた周辺環境への影響に留意します。

【⑤管理棟】

(仮称)運動施設棟が施設全体の管理・運営機能を担いつつ、管理棟には、施設利用の受付、更衣室、トイレなどの補助的な機能を配置することで、留保地内に整備する各施設からの距離や動線など、利用者の利便性に配慮することや、施設の効率的な管理や緊急時の迅速な対応を可能とすることなどに留意した配置とします。

【⑥天然芝フィールド】

FC東京からの提案に基づき、FC東京の練習拠点としての利用が主となる施設として整備します。利用計画に基づき、留保地全体を都市公園として整備することを踏まえ、グラウンドを活用した市民向け事業の展開によるスポーツを「する」、トップスポーツの観覧等による「みる」、アスリートを応援する「ささえる」といった多角的な視点から、市民がスポーツに親しめる環境づくりに留意します。

【⑦(仮称)運動施設棟】

FC東京からの提案を踏まえ、FC東京の練習拠点としての機能と併せて、市民の運動機会や留保地に整備する施設全体の管理・運営機能を担う施設として整備します。あわせて、公園利用者が気軽に立ち寄れる休憩・喫茶機能等の設置を検討するほか、利便性の向上や交流・憩いの場とする運用も想定するなど、様々な機能を備えることで、にぎわい創出や親しみを持てる空間を目指します。

【⑧防災備蓄倉庫】

調布市地域防災計画での位置付けを踏まえ、地域内輸送拠点としての機能を整備するため、防災備蓄倉庫を設置します。また、留保地内に整備する各施設の配置のほか、日常時や災害時の搬出入動線も踏まえ、災害等において適切に機能を発揮できるよう、効果的な位置に配置します。

【屋根（暑熱対策等）】

暑熱対策のための日陰や、天候急変の際の一時的な避難場所を確保するなど、利用者のみならず、施設を訪れる関係者の利便性や安全性の確保等に資する観点から、屋根を設置します。

【駐車場、駐輪場ほか】

公園利用者の利便性を高めるため駐車場（FC東京と共に、一部FC東京専用部分あり）、駐輪場を設置します。

駐車場は、来園者の安全な動線確保及び天文台通りの交通環境への影響抑制、FC東京の選手が利用する動線等を考慮し、一箇所にまとめて配置するとともに、滞留スペースを確保します。

4.4 災害対応に関する機能配置

大規模災害時には、留保地に関する調布市地域防災計画における位置付けを踏まえ、敷地全体を活用することと併せ、フェーズフリーの観点など、多角的な視点から、平常時の運用における各エリアの機能・性質を生かした対応を図り、市民の安全・安心の確保につなげます。

図表9 機能配置【災害対応時】

【Ⓐ一時避難・滞在エリア】

天然芝フィールドは、災害時における近隣住民等の一時的な避難場所や帰宅困難者の一時的な滞在場所として活用します。

【Ⓑ物資集積エリア】

人工芝グラウンドやテニスコート、多目的コートは、災害時における「市内各避難所等への物資輸送拠点」や「応援物資等の保管等ができる大規模な備蓄場所」として活用します。

物資の搬入・搬出を想定し、留保地内において輸送車両の動線を確保します。

【Ⓒ駐車エリア】

駐車場は、大規模災害時における物資輸送車両や関係車両の駐車・待機場所等として活用するとともに、水害発生時（水害の発生が予測される場合も含む）における、浸水想定区域内の車両等の避難場所としての活用を検討します。

【その他】

留保地内に整備する各施設について、大規模災害時において想定する活用を実効性のあるものとするため、平常時からの訓練等を通じて、円滑な対応や運用上の課題点の把握・改善に努めます。

また、近隣の味の素スタジアムや調布飛行場等において東京都が想定している災害時の機能や運用も踏まえ、必要に応じた連携等の可能性を検討するなど、広い視点での活用も検討していきます。



4.5 土地利用に関する考え方

留保地において、これまでに示した施設を整備するに当たっては、都市公園における運動施設の面積割合や、現行の土地利用の制限、周辺地域への影響など、想定される課題に関する方策を整理し、必要な対応を図ります。

図表10 土地利用イメージ図

